



いつもお世話になっております。今月号の事務所だよりをお届けしますので、ご査収下さいますようお願い申し上げます。

## 今回は「TKC全国会」についてご説明します。

「経営者の親身な相談相手として」

TKC全国会は、わが国の税理士および会計士9,861名(平成21年3月末現在)が組織するわが国最大級の職業会計人集団です。昭和46年8月17日に、結成され、今日まで37年にわたって「租税正義の実現」をはじめとする事業目的を達成するために鋭意努力してまいりました。

税理士法第1条は、「税理士は、税務に関する専門家として、独立した公正な立場において、申告納税制度の理念にそって、納税義務者の信頼にこたえ、租税に関する法令に規定された納税義務の適正な実現を図ることを使命とする。」と税理士の使命を定めています。私たちは、そのような使命観に立って、**中小企業の黒字決算**と適正申告の実現を支援することを念頭に、(1)関与先の**月次決算を迅速・適正に実施**するための月次巡回監査の実践、(2)『**中小企業の会計に関する指針**』に準拠した決算書の作成、(3)税務申告時における税理士法第33条の2に基づく書面の添付、さらには(4)国税と地方税の**電子申告の実践**などに積極的に取り組んでいます。

当事務所は、「TKC全国会」に所属しております。全国の若手税理士が日々研鑽に勤めております。(税理士の平均年齢は、60歳をはるかに超えていますので48歳の私もまだまだ若手の部類に入ります)

「TKC全国会」がまとめた調査によると、中小企業の経営者がやってはいけない事として次のような事項が掲げてありました。

- 不正蓄財(経営者のみが自らの利得のために、隠れた収入を得る行為)
- 公私混同(経営者のみが、会社の資産や経費を私的に利用)
- 病気・怪我(当たり前かと思われそうですが、企業経営にとって大きなマイナスです)
- 時間にルーズ(朝一番に出勤し、うまく段取りをつけ約束の時間に正確でなければいけない)
- 行方不明(社員・得意先・協力先等からの連絡が取りにくい様では危険信号です)
- ゴルフが多い(平日のゴルフの回数が多い経営者は企業にとってマイナス)

「子供は親の言ったとおりにはならないが、親がやったとおりになる」の格言どおり「社員は社長の言ったとおりにならないが、社長がやった楽なことのみを、まねしてしまう」ということでしょうか。

私も税理士になって18年、この業界に踏み込んで25年になりました。その間に多くの経営者の方々と接する機会をいただき、500社以上の会社の経営者の方々と親しくさせていただき多くのことを教えていただきました。そんな中で、この会社はすごく伸びてるなー、この経営者は素晴らしいと感じたことが何度となくありました。不思議にそう感じた会社は、さらに伸びて安定した経営を続けていらっしやいます。私なりに考えた伸びる会社の条件をまとめてみました。

- 経営者・社員が**明るく礼儀正しい**、お互いを含め、**大きな声で挨拶**している会社
- 社員全員が、経営者が、**勉強熱心**で常に**新しいことに積極的**に取り組んだ経営をしている会社
- 経営者の労働時間が他の社員よりも一番長い会社(**健康**に気を使った上でのことですが)
- 経営者と家族・社員・下請企業との**コミュニケーションがうまく**取れている会社
- きれいな会社、外見ではなく、**整理**(不要なものを捨て)**整頓**(必要なものがすぐ誰でも取り出せる)されている会社
- 経営者が、計数(**試算表・決算書・資金繰り・損益分岐等**)をよく理解している会社
- 5年前までは以上6項目でしたが、最近上記に「**事業承継がうまくいっている会社**」を加えました。

以上えらそうなことを書いてしまいましたが、今後ともどうぞよろしく願いいたします。